



2017年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2016年7月
大阪ガス株式会社

I. 17.3期第1四半期実績

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

本日は、お忙しいところ、当社の電話会議説明会にご参加くださりまして、ありがとうございます。

ただ今から、2017年3月期 第1四半期決算について、弊社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、簡単にご説明させていただきます。

17.3期第1四半期決算のポイント

■ 概況

売上高	LNG価格の下落に伴う、ガス販売単価の下落などにより、 前年比19.1%減収の2,763億円。
経常利益	スライド差益の減少により、ガス粗利益が減少したことなどにより、 前年比45.5%減益の403億円。 スライド差益は145億円(前年同期スライド差益415億円)。

■ ガス販売量

家庭用	ガス機器の高効率化による影響や、春先の気水温が高く推移したことなどにより、 前年比2.2%減少の501百万m³。
商・公・医療用	ガス機器の高効率化による影響や、お客さまの省エネルギー推進などにより、 前年比3.4%減少の291百万m³。
工業用	大規模な需要開発や、お客さま設備の稼働が増加したことなどにより、 前年比11.6%増加の1,091百万m³。

■ その他

新規事業拡大投資	海外エネルギー事業を中心に意思決定済案件への投資を実行。 第1四半期の投資実行額は 前年実績を116億円下回る129億円。
----------	---

資料の3ページをご覧ください。

2017年3月期 第1四半期は、減収・減益の決算となりました。

売上高は、LNG価格の下落に伴い、ガス販売単価が下落したこと等から、前年と比べて19.1%減収の2,763億円となりました。

経常利益は、スライド差益の減少により、ガス粗利益が減少したこと等から、前年と比べて45.5%減益の403億円となりました。

なお、スライド差益は145億円となり、前年同期と比べて270億円減少しました。

ガス販売量について、家庭用は、ガス機器の高効率化の影響や、春先の気水温が高く推移したこと等から、前年を2.2%下回る5億100万立方メートルとなりました。

商・公・医療用は、ガス機器の高効率化による影響や、お客さまの省エネルギーが推進されたこと等から、前年を3.4%下回る2億9,100万立方メートルとなりました。

工業用は、大規模な需要開発や、お客さま設備の稼働が増加したこと等から、前年を11.6%上回る10億9,100万立方メートルとなりました。

新規事業拡大投資については、海外エネルギー事業を中心に、第1四半期の投資実行額は前年を116億円下回る129億円となりました。

17.3期第1四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,259	7,203	+55	+0.8%
	新設工事件数(千件)	22	24	-2	-9.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	28.0	28.9	-0.9	-3.0%
	家庭用	501	512	-11	-2.2%
	商・公・医療用	291	302	-10	-3.4%
	工業用	1,091	978	+114	+11.6%
	業務用計	1,383	1,280	+103	+8.1%
	他ガス事業者向け	115	110	+5	+4.2%
	(うち大口供給)	(1,207)	(1,098)	(+109)	(+9.9%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	1,999	1,902	+97	+5.1%
連結ガス販売量	2,009	1,913	+96	+5.0%	

資料の4ページに、ただ今ご説明しました ガス販売実績を
まとめておりますので、ご確認ください。

連結ガス販売量は、前年を5.0%上回る
20億900万立方メートルとなりました。

また、プレゼンテーション資料には記載しておりませんが、
今年4月にサービスを開始いたしました、低圧電力のお客さま向け
供給件数は、6月末時点で13万5千件となりました。

契約件数につきましては、現時点で約17万件となっています。

なお、低圧電気供給件数および電力販売量につきましては、
数値詳細資料に記載しておりますので、後ほどご確認ください。

17.3期第1四半期実績 I

連結:億円、()内は連単倍率

	A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	A-B/B(%)	備考
売上高	(1.28) 2,763	(1.22) 3,415	-652	-19.1%	ガス販売単価の下落等
営業利益	(1.17) 384	(1.11) 723	-339	-46.9%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(0.86) 403	(1.04) 741	-337	-45.5%	ガス粗利益の減少等
四半期純利益*	(0.74) 269	(1.00) 521	-252	-48.4%	

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

		A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B
スライド差損益	億円	145	415	-270
原油価格	\$/bbl	40.9	59.6	-18.7
為替レート	円/\$	108.0	121.4	-13.4

17.3期1Q原油価格実績は、6月上中旬値までの平均。

資料の5ページに、決算数値をお示ししていますので、ご確認ください。

売上高は、ガス販売単価の下落等により、前年と比べて652億円減収の2,763億円となりました。

スライド差損益の減少によって、ガス粗利益が減少したこと等により、営業利益は、前年と比べて339億円減少の384億円、経常利益は、前年と比べて337億円減少の403億円となりました。

17.3期第1四半期実績 II

連結:億円	A. 17.3期 1Q末	16.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	17,365	18,340	18,297	-931	流動資産の減少等
自己資本	8,967	9,227	9,066	-98	
有利子負債	5,527	5,915	5,671	-144	
在籍人員	21,137	21,634	20,844	+293	
自己資本比率	51.6%	50.3%	49.5%	+2.1	
D/E比率	0.62	0.64	0.63	-0.01	

	A. 17.3期1Q	B. 16.3期1Q	A-B	備考
設備投資	154	219	-65	製造設備投資の減少等
減価償却費	206	209	-3	
フリーキャッシュフロー	88	814	-725	

資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、資料6ページの通りです。

設備投資については、LNGタンク等の製造設備への投資が減少したこと等により、前年を65億円下回る154億円となりました。

7ページ以降には、第1四半期決算のセグメント別情報や、売上高・経常利益について、前年差異の要因分析資料等を付けておりますので、後ほどご覧下さい。

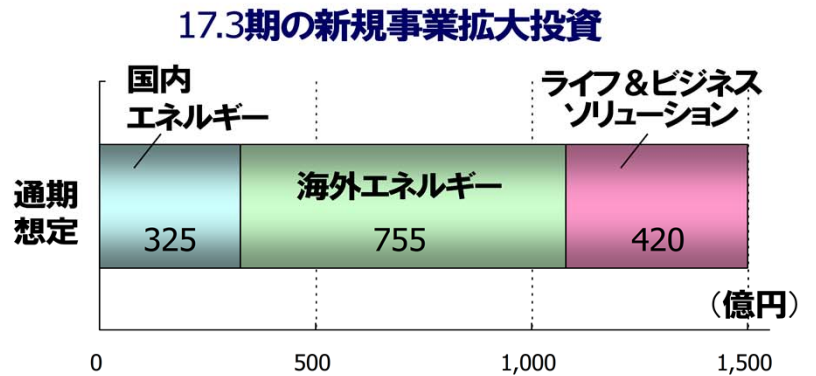
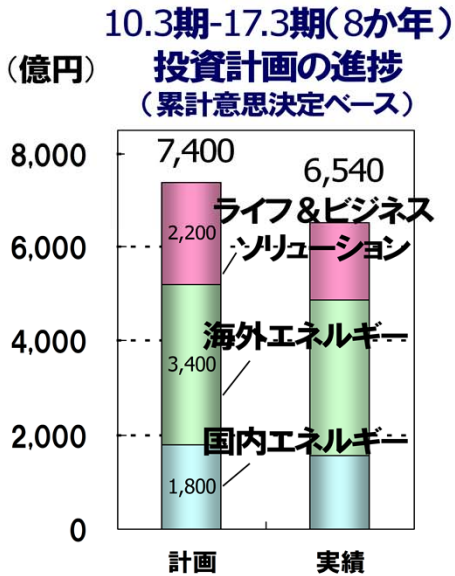
なお、2017年3月期の業績見通しにつきましては、3月発表時から変更はありません。

以上で、2017年3月期 第1四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料 (1)

17.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は6,540億円(対計画88%)。
- 17.3期の投資実行額は129億円(対計画9%)。



17.3期1Q実績：129億円

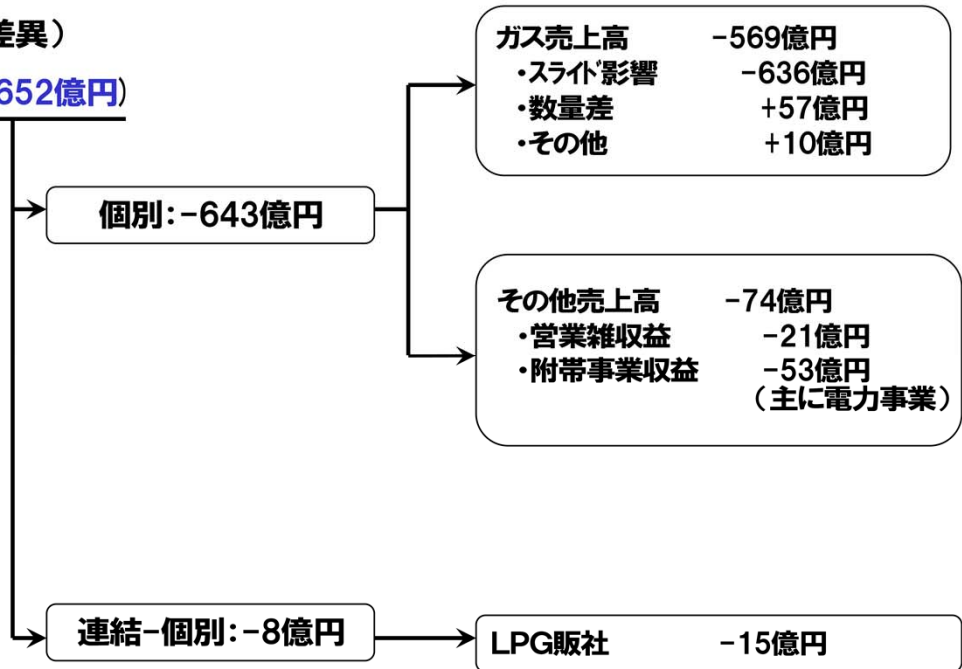
- ・ 国内エネルギー：27億円 (LPG事業, 発電所建設など)
- ・ 海外エネルギー：78億円 (上流案件, 発電所建設など)
- ・ ライフ&ビジネスソリューション：23億円 (都市開発事業など)

投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

17.3期第1四半期の売上高差異(対前期)

16.3期1Q → 17.3期1Q (差異)

3,415億円 2,763億円 (-652億円)

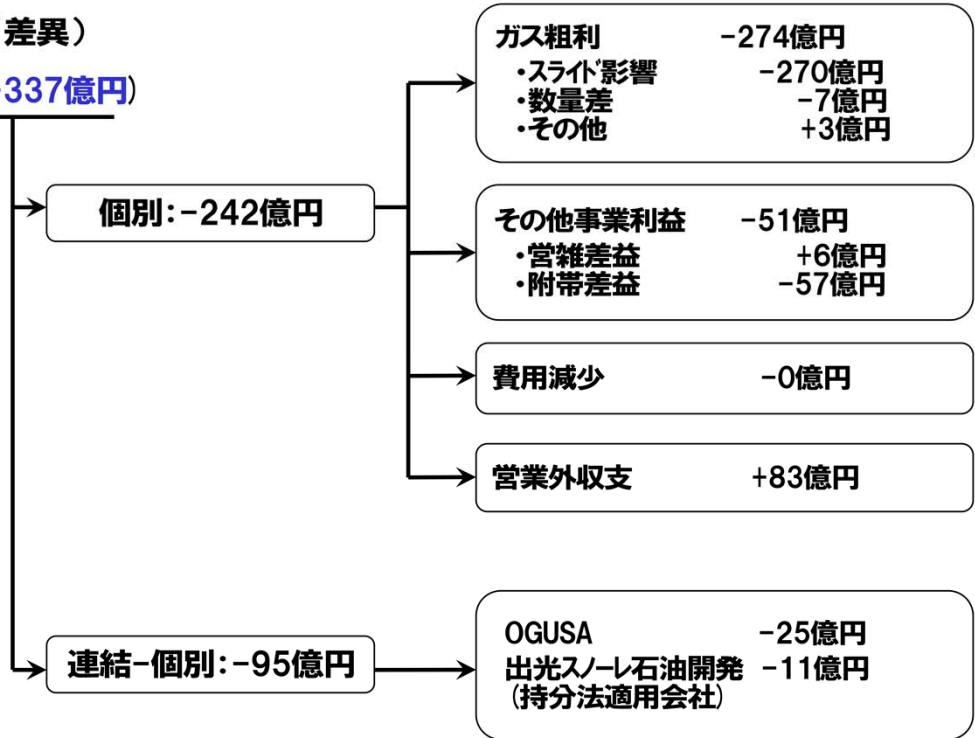


17.3期第1四半期の経常利益差異(対前期)

+-の符号は利益への影響を表す。

16.3期1Q → 17.3期1Q (差異)

741億円 403億円 (-337億円)



家庭用ガス販売

17.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.8%	
気水温影響等	-0.8%	平均気温20.4度(対前期+0.3度)
その他	-2.2%	ガス機器の高効率化等
合計	-2.2%	



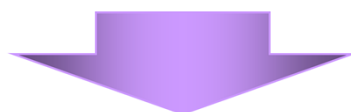
17.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、主に冬期の需要が増加し、前年比+2.1%、44百万m³増の2,127百万m³を見込む。

商・公・医療用ガス販売

17.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.0%	空調需要を中心とした新規開拓
気水温影響等	-0.3%	
個別要因	-0.8%	特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少
その他	-4.3%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-3.4%	



17.3期見通し

- お客さま先の設備稼働の増加影響などを織り込み、前年比+3.9%、55百万m³増の1,464百万m³を見込む。

工業用ガス販売

17.3期1Q実績

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	対前期	備考		販売量	対前期比
需要開発	+12.9%	大規模な需要開発等	機械	69	97.3%
稼働増減等	+1.0%	お客さま設備の稼働増等	金属	237	100.0%
個別要因	-1.5%	特殊要因による減少	ガラス	70	99.1%
その他	-0.8%		化学	313	103.6%
合計	+11.6%		食品	131	103.2%

17.3期見通し

- 新規需要開発やお客さま設備の稼働増加を織り込み、前年比+7.7%、314百万m³増の4,373百万m³を見込む。

17.3期第1四半期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 1Q	16.3期 1Q	17.3期 1Q	16.3期 1Q	
ガス	1,968	2,559	325	591	売上:ガス販売単価減等 利益:スライド差益減少等
LPG・電力・ その他エネルギー	402	482	35	81	売上・利益: 主に電力事業で減少
海外エネルギー	30	44	-24	12	売上:OGUSA等で減少 利益:OGUSA, 出光スノーレ等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	492	477	35	33	売上:大阪ガス都市開発等で増加 利益:Jacobi社等で増加
消去又は全社	-131	-148	6	5	
連結	2,763	3,415	377	725	

(*)セグメント利益=営業損益+持分法投資損益

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-12億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第2四半期以降の経常利益は-6億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間-5億円変動する可能性がある。

III. 参考資料 (2)－17.3期見通し

3月発表時の見通しから、変更ありません。

17.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,298	7,252	+46	+0.6%
	新設工事件数(千件)	109	109	-0	-0.4%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	29.7	29.3	+0.4	+1.5%
	家庭用	2,127	2,083	+44	+2.1%
	商・公・医療用	1,464	1,410	+55	+3.9%
	工業用	4,373	4,059	+314	+7.7%
	業務用計	5,837	5,469	+368	+6.7%
	他ガス事業者向け	483	469	+14	+3.0%
	(うち大口供給)	(4,991)	(4,647)	(+344)	(+7.4%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,447	8,021	+427	+5.3%
連結ガス販売量	8,480	8,052	+427	+5.3%	

17.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.32) 11,705	(1.27) 13,220	-1,515	-11.5%
営業利益	(1.80) 855	(1.31) 1,466	-611	-41.7%
経常利益	(1.36) 780	(1.19) 1,349	-569	-42.2%
当期純利益*	(1.16) 520	(1.01) 843	-323	-38.3%
SVA**	234	526	-291	-55.4%
スライド差損益 億円	124	817	-692	
原油価格 \$/bbl	42.5***	48.7	-6.2	
為替レート 円/\$	120.0	120.2	-0.2	

* 親会社株主に帰属する当期純利益

** SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

*** 原油価格の前提 1-2Q:40\$/bbl, 3-4Q:45\$/bbl

17.3期見通し II

連結:億円	A. 17.3末見通し	B. 16.3末実績	A-B
総資産	18,907	18,297	+609
自己資本	9,741	9,066	+674
有利子負債	5,698	5,671	+26
在籍人員(人)	21,232	20,844	+388
自己資本比率	51.5%	49.5%	+2.0
D/E比率	0.59	0.63	-0.04
	A. 17.3期見通し	B. 16.3期実績	A-B
設備投資	1,095	1,144	-48
減価償却費	866	867	-0
フリーキャッシュフロー	1,135	2,257	-1,122
ROA	2.8%	4.6%	-1.8
ROE	5.4%	9.4%	-4.0
EPS (円/株)	25.0	40.5	-15.5
BPS (円/株)	468.3	435.8	+32.4

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)ー通常の設備投資による支出

17.3期セグメント別見通し

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	17.3期 見通し	16.3期 実績	17.3期 見通し	16.3期 実績	
ガス	7,961	9,485	455	957	売上:ガス販売単価の低下 利益:スライド差益の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	1,908	2,064	135	288	売上・利益: 主に電力事業で減少
海外エネルギー	227	187	15	-2	売上:LNG船事業等で増加 利益:持分法適用会社で増加等
ライフ&ビジネス ソリューション	2,213	2,217	220	188	利益:大阪ガスケミカルG等で増加
消去又は全社	-604	-733	21	-9	
連結	11,705	13,220	846	1,421	

(*)セグメント利益=営業損益+持分法投資損益

以 上